

早いもので2025年も半ばを過ぎました。また暑い夏がやってきそうです。東日本大震災の後に電力消費の削減を要請されたのも今は昔、最近では熱中症予防のための積極的なエアコンの活用が推奨されます。それだけ暑さの程度が増したということでしょうか。わが国の原発の多くが止まっている現状で、電力消費が増える将来の発電はどうなるのか。アメリカの大統領は地球温暖化など気にしてないようです。今の子どもたちが大人になる頃には、どんなエネルギー政策になっているのか、心配です。

さて、本号の特集は「大災害と子どもたち」です。「Excluded and Invisible——声なき者の声として」は、災害時、災害後、災害に備えて小児科医がなすべき役割についての総論・提言です。次いで、過去の大災害の経験が語られています。1995年 阪神淡路大震災、2011年 東日本大震災、2016年 熊本地震、2024年 能登半島地震について原稿をいただきました。5～8年ごとに大災害が発生しています。

次に、災害対応のインフラストラクチャについての概説です。「災害派遣医療チーム (DMAT)・災害医療コーディネーター」ではDMATについて概説いただきました。「広域災害救急医療情報システム (EMIS)」では、災害状況を入力し、円滑な医療体制の維持に役立て

ようとする情報システムについて概説いただきました。「災害時小児周産期リエゾン」では、災害時の小児周産期のリエゾンの役割について概説いただきました。「大規模災害対策情報システム (PEACE)」は周産期医療にかかわる学会主導の情報システムについて概説いただきました。「災害時感染制御支援チーム (DICT)」も学会主導の感染症対策支援のシステムです。いろいろな支援システムのなかで、感染症に特化して支援を補強するものです。

災害はいつか必ずやってきます。自分の住んでいる地域が今日、明日にも大災害に見舞われるかもしれないのです。小児科医として何ができるか、災害にそなえて御一読ください。

特集のほか、総説では「小児期の夜尿症と移行期以降の排尿症状との関連」「SGA 性低身長症アップデート」、症例報告として3論文が掲載されています。また「最近の外国業績より」では日本医科大学小児科教室から免疫に関する論文を紹介いただきました。

以上、非常に充実した、日常診療に役立つ内容かつ将来に備えて考えさせられる内容になっていますので、ご一読下さいますようお願いいたします。

(中西 敏雄)

編集：中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄 (ABC 順)

小児科

第66巻 第6号 6月号

2025年6月1日発行 (毎月1回1日発行)

定価 3,190 円 (本体 2,900 円 + 税 10%)

年間購読料金

定価 49,500 円 (本体 45,000 円 + 税 10%)

[年間 13 冊 (増刊号、増大号を含む) の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03-3811-7165 [雑誌部直通]

Tel 03-3811-7184 [営業部直通]

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。